

基本情報						
教科・科目		数学1	・授業で使用するもの 体系数学1、体系数学2(数研出版) これからの数学2、これからの数学3(数研出版)			
担当者		高山、若林				
評価割合(試験:試験外)		試験:6 試験外:4	試験は、単元目標および<知技、思判表、主体>の3観点に沿って出題する。			
年間を通じて教科で培う力		鍛錬(知識及び技能)	・言葉の意味が理解できる。証明の流れや手順を理解できる力。 ・基本的な計算(教書の練習問題)ができる力。			
		理知(思考力・判断力・表現力等)	・証明の流れや手順が書ける。問題に対して、自らの解答までの道筋を説明できる。与えられた問題に対して、正しい公式や定理を選択できる力。			
		探求・叡智(主体的に学習に取り組む態度)	・帰納的に類推したり演繹的に思考したりし、粘り強く考えることができる力。 ・疑問や気づきを他者と共有し、相互での学びを深めることができる力。			
学習情報						
月	回	単元名	単元目標(到達状態)	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4		1次関数 1次関数の利用	知識・技能) ・特定の事象を1次関数と見なすことができる。 思考・判断・表現) ・1次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。	□1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること～保冷バックで飲料の冷たさはいつまで保てる?～	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
4 5		式の計算 多項式の計算 因数分解 式の計算の利用	知識・技能) ・展開や2次式の因数分解ができる。 思考・判断・表現) ・数学的なことから、展開や因数分解を利用しながら、文字を含んだ式を用いて一般化したり説明したりすることができる。	□単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法～単項式の除法を乗法にするのはなぜか?～ □1次式の乗法、式の展開と因数分解 □持ちを用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明すること～効率の良い計算手順は?～ ～ x^2+6x+6 は因数分解可能か?～	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
6	定期試験① 令和7年 6月2日—6月4日					
6 7		平方根 平方根 根号を含む式の計算 有理数と無理数 近似値と有効数字	知識・技能) ・平方根の定義を理解し、自然数の平方根を求めたり、大小を比較することができる。 ・根号と四則計算の間の関係について理解し、根号を含む式の計算ができる。 思考・判断・表現) ・平方根の意味と必要性を理解し、日常の課題等に平方根を活用し表したり処理したりすることができる。	□数の平方根の必要性和意味～数直線は本当に直線?～ □数の平方根を含む式の計算～ $\sqrt{10}$ の小数第2位は?～ □平方根を具体的な場面で活用すること □誤差や近似値	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
7	定期試験② 令和7年 7月9日—7月11日					
9 10		2次方程式 2次方程式の解き方 2次方程式の利用	知識・技能) ・2次方程式を、平方根の考えや因数分解、解の公式を利用して解くことができる。 思考・判断・表現) ・具体的な場面において2次方程式を用いて問題を解決することができる。	□2次方程式の必要性和意味およびその解の意味 □因数分解したり平方の形に変形したりして解くこと □解の公式を理解し、それを用いて2次方程式を解くこと ～次の方程式はどの方法で解くのが良い?～ □2次方程式を具体的な場面で活用すること	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
10	定期試験③ 令和7年 10月20日—10月22日					
10 11 12		関数 $y=ax^2$ 関数 $y=ax^2$ 関数 $y=ax^2$ のグラフ 関数 $y=ax^2$ の値の変化 関数 $y=ax^2$ の利用 いろいろな関数	知識・技能) ・関数の定義および、2乗に比例する関数の意味と性質を理解している。 思考・判断・表現) ・変化の割合について、式、表、グラフと関連付けながら関数の考察における役割について理解している。 ・数量関係をグラフ化し幾何的に処理することや、逆に幾何的課題を数量関係として処理することができることを知り、その活用を図ることができる。	□事象と関数 $y=ax^2$ ～ y は x の関数であるとは?～ □いろいろな事象と関数 □関数 $y=ax^2$ の表、式、グラフとそれらの相互関係 □関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること～1分あたりどれだけ進む?～	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
12	定期試験④ 令和7年 12月10日—12月12日					
1 2 3		確率 場合の数 事柄の起こりやすさと確率	知識・理解) ・同様に確からしいことの意味を理解し、その前提のもと数学的確率を求めることができる。 思考・判断・表現) ・不確かな事象を表現したり、説明したりし、確率の意味とその有用性について理解している。	□場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味 □簡単な場合について確率を求めること 確率を用いて不確かな事象を捉え考察し表現すること～くじは何番目にひくのが有利か?～	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
3	定期試験⑤ 令和8年 3月4日—3月6日					